

# 男女共同参画の視点からの防災研修

座学

1 防災と男女共同参画

グループ  
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

## セッション2の進め方

- 1 個人でシチュエーションシートを読む。
- 2 グループで  
「1年前に戻ることができたら、地域の対策として、行政は何をしておくとおよいか」を話し合う。
- 3 全体で話し合った内容を共有する。
- 4 講師が「気になるワード」「対策のポイント」を説明し、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」及び「解説・事例集」を用いて解説する。

## 話し合いのルール

### 平等

全員が発言する。  
時間を独り占めしない。

### 安全

他人の意見を否定・批判しない。

### 自由

個人の立場で自由に発想する。

# グループで話し合い

もしも1年前に戻ることができたら、  
この地域の対策として、  
行政は何をしておくとよいでしょうか。

## 津波①

- ある平日の午後2時、あなたが自宅にいるときに、立ってられないほどの大きな地震がありました。以前に「津波が25分後に到達する」という話を聞いたことを思い出し、すぐに避難しようと外に出ました。
- 外に出ると、血相を変えて「子どもを小学校に迎えに行きます！」と走っていく女の人がありました。
- 1歳くらいの子どもを連れたお腹の大きい妊婦さんがおろおろしていて、「私はどうしたらよいのでしょうか」とあなたに声をかけてきました。

## 津波②

- あなたは、その妊婦さんと一緒に、近くの高台に向かいました。
- 途中で保育所の前を通ると、保育士がお散歩車に子どもを乗せていました。大声で泣いている子どももいました。  
高台に向かう道路は、信号もとまり車や人で大混雑していて、保育士たちはどうやって安全に避難するか話し合っていました。
- 高台につくと、他にもたくさんの方が集まっていました。  
お年寄りや女性が大半でした。

## 気になるワード

「小学校に迎えに」 「子どもを連れてお腹の大きい妊婦」  
「保育所」

## 対策のポイント

1. 性別、年齢等にかかわらず、多様な住民に対して、防災知識の普及や訓練を行っているか。
2. 平日昼間、夜間、休日等様々な条件を想定し、保育所、幼稚園、小・中・高等学校、大学等や、企業、自主防災組織等と連携し、男女が共に参画した防災訓練を定期的の実施しているか。
3. 妊産婦や乳幼児の安全で確実な避難のために、妊産婦や乳幼児の保護者等に対して防災知識の普及や訓練を行っているか。

## 解 説

### 取組指針 1 事前の備え・予防 (5) 防災知識の普及、訓練

災害への備えや、災害発生時における対応に関する学習機会等について、妊産婦や乳幼児の保護者はこれらへの参加が少ないことが考えられるため、保健所、子育て支援センター、保育所等と連携して防災知識や避難の具体的な方法等を知ってもらうことが必要。

また、防災訓練を実施する際は、平日、休日、昼間、夜間など様々な条件を想定し、保育所、学校、企業、自主防災組織等と連携して繰り返し実施することが必要。

### 取組指針 2 発災直後の対応 (1) 避難誘導の実施

妊産婦や乳幼児を連れた保護者は、避難に時間と支援を要することが多いため、関係機関、近隣住民等の協力を得て、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を行うことが必要。

こうした災害発生時の妊産婦及び乳幼児の避難対応について、保健所や子育て支援センター等を通じて、妊産婦や乳幼児を連れた保護者に対して、平常時から周知しておくことが必要。